



飯塚病院

中央検査部

CENTRAL LABORATORY



【輸血部門】

貧血や出血に対し、輸血製剤を準備しています。輸血製剤には、献血により作られる「血液製剤」と患者さん自身の血液から作られる「自己血製剤」があります。緊急時などは血液製剤を使用しますが、飯塚病院では、手術に向けて自己血製剤を確保することもできます。血液製剤を安全に使用するために、24時間体制で血液型検査、不規則抗体検査、交差適合試験を行っています。

【血液部門】

血液検査室では、自動血球分析装置を用いて血液中の赤血球、白血球、血小板等の血球成分を測定しています。これらの項目は貧血や白血病等の血液疾患、感染症、治療経過判定等の指標として用いられます。

必要時には血液を染色し、顕微鏡にて細胞形態に異常が無いかを観察しています。

血液検査にて異常が疑われる場合には、骨髄検査を実施し、同様に顕微鏡による形態観察や細胞表面機能検査等を実施します。



【特殊分析部門】

特殊分析室では、様々な装置を用いて自動分析器では測定していない項目を測定しています。具体的には、高速液体クロマトグラフィー（以下、HPLC）を用いてビタミンB1、原子吸光光度計にて亜鉛やリチウム、間接蛍光抗体法分析装置で抗核抗体を検査しています。

最近では、HPLCと質量分析器の複合した装置LC-MS/MSの活用に入力しており、中毒薬毒物分析や血中薬物モニタリング、研究目的での検討などを行っています。





【一般検査部門】

尿一般検査は病気のスクリーニングや診断の手がかりとして、病院や健康診断で行われ、尿の中にどんな成分が含まれているかを調べる検査です。

尿一般検査では、尿試験紙などの簡単な試薬を使って、尿のpH、蛋白、糖、潜血、白血球、ビリルビンなどの項目を測定します。

尿中に異常な成分が出ている場合は、腎臓病、糖尿病、尿路感染症、肝臓病、尿路結石などの可能性があります。

【病理・細胞診部門】

病理診断とは、手術または検査の目的で採取された臓器、組織、細胞などを対象に顕微鏡標本などを作製し、詳しい診断を行うことです。形態的な変化として把握される病変を、肉眼レベルの観察から、顕微鏡レベル、さらには染色体・遺伝子レベルに至るまでの変化を捉えて病理診断を行っていきます。

病理診断は治療方針の決定、治療の影響や効果の判定に大きく関わっています。



【微生物部門】

血液、喀痰、尿、便、膿などの検体を検査することにより、病気(感染症)を引き起こす原因となる微生物を特定する検査です。

さらに、特定された微生物にはどのような抗生物質が有効かを調べる検査(薬剤感受性検査)を実施しており、感染症の診断と治療に欠くことのできない検査です。

その他、新型コロナウイルスや結核菌など様々な遺伝子検査も実施しています。





【超音波（腹部・体表）部門】

腹部エコー検査室では、消化器（肝臓、胆嚢、膵臓、腸管など）、血管、甲状腺、乳腺など心臓以外の部位のエコー検査を担当しています。超音波検査士の資格を持つ技師も多く在籍し、スキルアップできる環境です。1日100件前後の検査を行っています。

【循環器検査部門】

生理検査の中でも、心臓や血管系の循環器に関連する検査を行います。心電図、運動負荷心電図(トレッドミル、マスター2階段検査、CPX)脈波検査(ABI)、心臓超音波検査などがあります。

検査室以外にも心臓カテーテル検査室での業務があり、心電図や圧測定、血管内超音波(IVUS)の操作を行います。



【神経生理部門】

神経生理検査とは、神経活動の変化を客観的に捉えて、神経疾患の治療や診断につなげる検査です。当院では、脳波検査・誘発電位検査を行っています。

●行っている検査の種類

脳波検査：通常脳波、睡眠脳波、24時間脳波

誘発電位検査：NCS、ABR、SEP、SSEP、
顔面神経（ENoG比）

HMテスト、VEP など

両検査で病棟へ撮りに行くポータブル検査も行っています。





【採血室】

採血室では、臨床検査技師と看護師で外来患者さんを対象に、1日およそ400～600名の採血を実施しています。

待ち時間の短縮や採血失敗の低減を目標に、日々採血における品質の改善を意識しており、「日本一安心・安全な採血室」を目指して、スタッフ一丸となって取り組んでいます。採血に関して、ご不安な点やお問い合わせがございましたら、遠慮なくお声かけください。